Cambridge Assessment English

2018 年 3 月

ケンブリッジ英語検定の受検料について

Q1:　受検料は？

A1:　現在のところ、日本で統一された受検料はなく、各認定試験センターが独自に受検料を決定しています。これは、国や地域の事情により試験センターが独自に受検料を決定できるという世界共通の取扱いによるものです。しかしながら日本では、同額の受検料を複数の試験センターが採用している状況もあり、以下「参考価格」としてご紹介しています。

なお 2020 年 4 月以降は、大学入試英語成績提供システム参加の場合には、**日本全国統一の受検料**を導入する予定です。

Cambridge English Qualifications	現在の受検料 参考価格　（税込）	2020 年 4～12 月 大学入試英語成績提供 システム用受検料（税込） 通常価格（予定）
A2 Key/Key for Schools	¥9,720～	¥9,720
B1 Preliminary/Preliminary for Schools	¥11,880～	¥11,880
B2 First/First for Schools	¥19,980～	¥19,980
C1 Advanced	¥22,140～	¥22,140
C2 Proficiency	¥25,380～	¥25,380

Q2:　受検料が適切であると考える理由は？

A2:　国際通用性の高い英語運用能力資格であること、高いセキュリティーのもと実施される試験であること、国際基準 CEFR に準拠している 4 技能試験でスピーキングテストが対面式であること等、ご勘案頂きますと適切な受検料であると考えます。特に、A2 レベル（Key）と B1 レベル（Preliminary）については受検料は利用しやすい設定であるといえます。

また、大学入試英語成績提供システム参加により受検者数が増える公算は大きいですが、増えた場合でも、例えばスピーキング試験官（以下、SE と称す）について、以下のようにかえって調整が必要となり、直ちに受検料を引き下げる理由にならないという点をご理解頂ければ幸いです。

- 試験官 2 名 1 組で対面式で行われるスピーキングテスト用に、受検者増に対応する SE の養成が必要になってくるが、1 日に評価する受検者数には上限があるため、場合によってはコスト増の可能性があること
- 現在、要件を満たす人材をリクルートすることが難しい*ため、受検料を引き下げた結果 SE 報酬が下がり、SE 希望者が減少し必要数の確保が難しくなることが危惧される
  *例えば 2020 年、一番受検者が多いと予想される B1 Preliminary/Preliminary for Schools の非母語話者 SE の要件は「現役の英語指導者で、最低必要とされる語学レベルが C1 Advanced 以上であること」
- （他の 1 対 1 の対面式スピーキングテストに比べ）有資格者 2 名派遣となるため人件費が 2 倍かかること
- 毎年対面式の集合研修に参加して資格更新の必要があり、そのための研修費用がかかること

Q3:　受検料の割引は？

A3:　2020 年度に向けて、試験会場等が無償で提供されるなど条件が整った場合、割引受検料を検討中です。経済的に困難な受検生への配慮も、一定の条件のもとに低減を検討中です。